

おおさき 議会だより



女性団員8人加入、4年ぶりの出初式
(団員募集中)

12月定例会

こんなこと決めました

- 決算審査特別委員会…………… 2
- 令和5年度補正予算 …… 4
- 町政を問う(一般質問)…………… 8
- インタビュー(ピックアップおおさき) …… 19
- 町民の広場・編集後記…………… 20

ように使われたか？

認定

令和4年度 大崎町一般会計・特別会計 歳入歳出決算

(10月3日から10月23日までの21日間実施)

歳入

令和4年度一般会計決算における収入済額は、132億5,370万6,350円であった。予算現額に対して収入済額が101.9%の収入率で、収入は確保されており、予算の執行において影響はなかったものと判断される。今後も、町税等の納期内納付を推進するとともに、さらなる納税、納入意欲の高揚に努められたい。また、ふるさと納税寄附金及び一般寄附金は、本町の貴重な財源となっていることから、引き続きリピーターや新規寄附者の獲得に努められたい。

歳出

次年度予算に反映させるよう要望

税務課

安易な不能欠損の処理ではなく、財産調査や分割納入の交渉など、徴収率の向上には引き続き努力されたい。

環境政策課

環境問題全般について相談しやすい体制づくりと、住民に必要な情報はすみやかに提供されるよう対応を求める。

総務課

交通弱者に対する施策等を、早い段階でさらに検討・実施されるよう要望する。

企画政策課

本町の課題である人口減少対策について、関係課と連携し、さらに踏み込んだ政策を実施されるよう要望する。

農業委員会

農振除外や農地転用後、隣接耕作地へ迷惑が及ばないよう管理の徹底を地権者に指導するよう要望する。

管理課

学校給食については、さらなる地産地消の推進に向けて努力されたい。また、給食費の無償化についても検討されたい。

社会教育課

草刈り等委託料の取り扱いについては、契約内容の改善も含め、適正な予算執行となるよう努められたい。

建設課

公営住宅の解体後は、新たに建て替えるなど、各校区においても公営住宅を存続させるよう要望する。

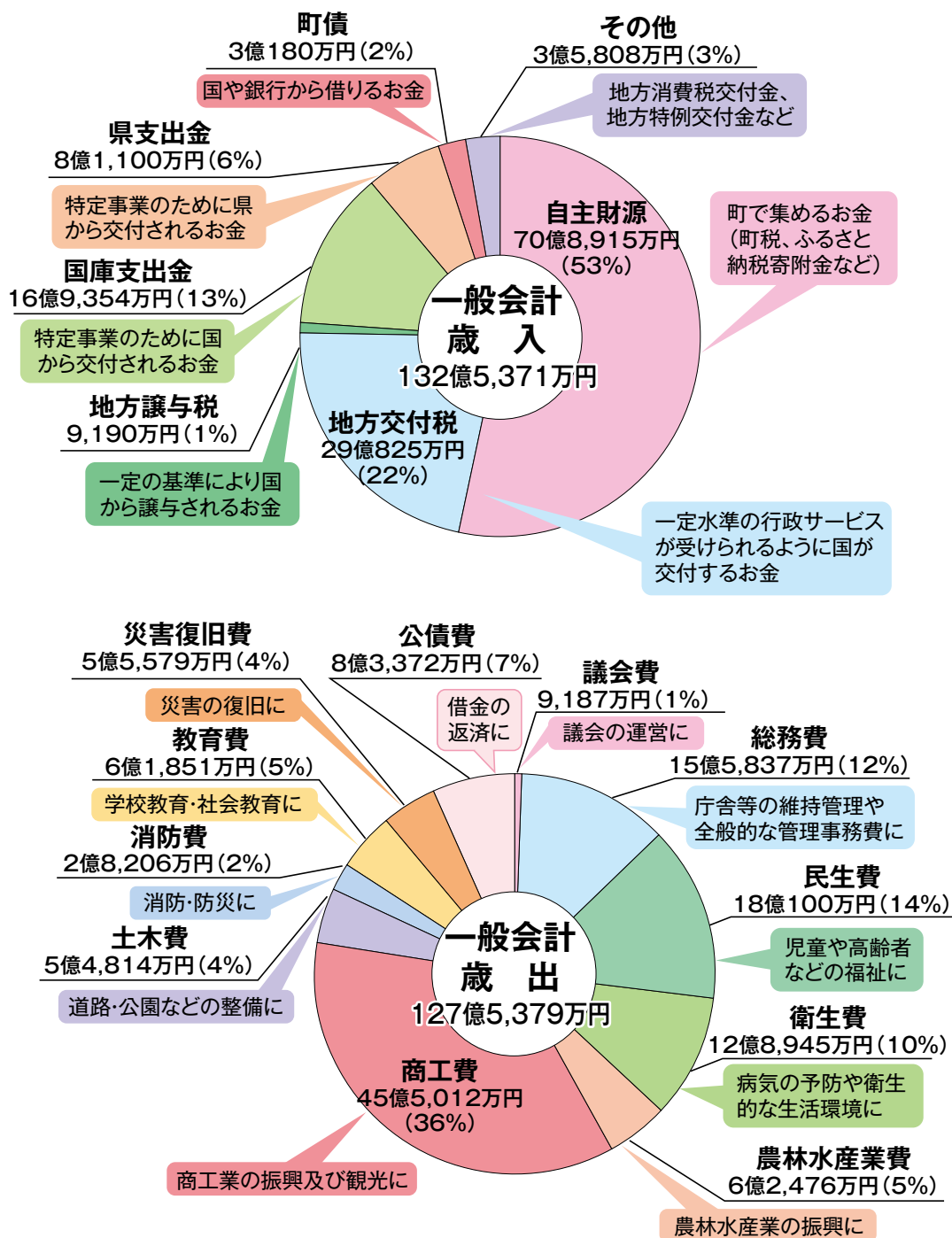
農林振興課

有害鳥獣捕獲事業補助金については、近隣市町と足並みを揃えた補助単価の引き上げを検討されたい。

商工観光課

ふるさと納税は、自治体間競争など厳しい局面も出てくると思われるが、今後とも鋭意努力されるよう要望する。

わたしたちの税金はどの



(歳入、歳出内訳の金額及び合計金額は四捨五入)

令和4年度一般会計・特別会計の決算状況

(単位:円)

項目	歳入	歳出	差引額
一般会計	13,253,706,350	12,753,793,120	499,913,230
国民健康保険事業特別会計	1,762,692,459	1,737,255,142	25,437,317
介護保険事業特別会計	1,943,635,554	1,823,691,341	119,944,213
後期高齢者医療特別会計	212,906,908	207,916,180	4,990,728
公共下水道事業特別会計	205,119,058	197,977,600	7,141,458

すでに4千598人に助成

子どもたちの病気早期発見・早期治療のため

電気料金やガソリン代を助成

保育所・保育園・障害者施設・介護施設・病院など電気料金・ガソリン代などの値上がりに対する国からの助成金。

1,840万5千円

要望 今後これらの施設に従事する職員の、処遇改善や人材確保の予算なども検討するよう要望した。

大崎中学校 特別支援教室を増室

令和6年度の中学校入学生予定者のうち、支援教室希望者の増加が予想されていることから、教室の改造・机・イス・空調設備などの必要経費。

154万4千円



笑顔で子どもの内診

子どもの健康増進をはかるために、子どもが生まれた日から18歳に達した後の最初の3月31日までの医療費を助成するための補正予算総額は3438万3千円となる。

460万円

町内で新たな事業を創める方を支援

町内で新規創業者として設備投資をしようとする方を支援する。

総額291万9千円

191万9千円

質問 補助金の内容を示せ。

答弁 新規創業者の設備に関する補助で、補助率3分の2で限度額90万円であり2件分を想定している。

空き家のある敷地を

更地にする助成金

空き家などを、解体・撤去敷地を更地に要した経費を補助する。50万円を増額し、総額125万円とする。

質問 補助対象の要件は。

答弁 空き家撤去後の更地について速やかに、町の空き家バンクに登録するか、1年以内に定住住宅の建設着手することが要件である。

立小野ふれあい館を解体

立小野ふれあい館・外部トイレの解体及び法面のモルタル吹付工事。

1,300万円



利活用されなくなったふれあい館

蛭の里は再生できるか

災害復旧工事として、下持留地区湧水池の法面を蛇籠を使用した災害復旧工事。

210万1千円

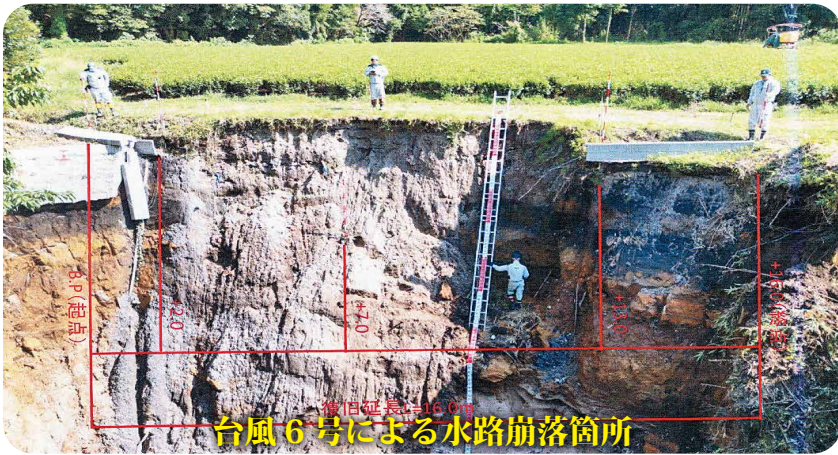


蛭の再生が待たれる湧水池

台風6号災害復旧工事

野方（篠段）地区の水路2路線・道路1路線の他、台風6号等による災害箇所への復旧工事予算は8307万2千円（1月末現在）となる見込み。

5,545万8千円



台風6号による水路崩落箇所

水道事業補正予算

倉元中継ポンプ場・中山第一水源地の機器の修繕費・軽自動車の購入費。

339万6千円

質問 機器の修繕費とのことだが、故障の原因を示せ。

答弁 7月8月の落雷発生に伴うものと判断され、現在、保険会社による損害保険の審査中である。

要望 落雷被害に対する安全対策として、主要水源地に、避雷針の設置を要望する。

公共下水道事業予算

国県支出金250万円、下水使用料金、239万4千円、合計489万4千円を減額

予算から489万4千円を減額し、400万9千円で西三文字地区マンホールポンプ場工事着手。

489万4千円減額

質問 マンホールポンプ場の概要を示せ。

答弁 豪雨、浸水などによる停電発生が予想されるため、高い基礎と発電機の常設設置。

12月議会定例会 議決結果

議案等の番号	件名	議決結果	採決状況
認定第1号	令和4年度大崎町一般会計歳入歳出決算認定について	認定	全員賛成
認定第2号	令和4年度大崎町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	全員賛成
認定第3号	令和4年度大崎町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	認定	全員賛成
認定第4号	令和4年度大崎町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	全員賛成
認定第5号	令和4年度大崎町水道事業会計決算認定について	認定	全員賛成
認定第6号	令和4年度大崎町公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	認定	全員賛成
議案第36号	令和4年度大崎町水道事業剰余金の処分について	可決	全員賛成
議案第37号	大崎町立小野ふれあい館の設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定について	原案可決	全員賛成
議案第38号	大崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	全員賛成
議案第39号	大崎町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	全員賛成
議案第40号	大崎町町長等の給与等に関する条例及び大崎町議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	全員賛成
議案第41号	令和5年度大崎町一般会計補正予算（第6号）	原案可決	全員賛成
議案第42号	令和5年度大崎町国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決	全員賛成
議案第43号	令和5年度大崎町水道事業会計補正予算（第2号）	原案可決	全員賛成
議案第44号	令和5年度大崎町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決	全員賛成
議案第45号	大崎町債権管理条例の制定について	修正可決	全員賛成
議案第46号	大崎町公共下水道事業の設置等に関する条例の制定について	原案可決	全員賛成
議案第47号	大崎町公共下水道事業の剰余金の処分等に関する条例の制定について	原案可決	全員賛成
議案第48号	大崎町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	全員賛成
議案第49号	令和5年度大崎町一般会計補正予算（第5号）	原案可決	全員賛成
請願第1号	町民原口アヤ子さんを慰労する決議を求める請願書	不採択	-
同意第15号	教育委員会教育長の任命について	同意	-

人事案件



氏名 穂園 正幸氏（62歳）
住所 大崎町横瀬

教育委員会教育長に、次の方を同意いたしました。

条例関係

子育て世代の負担軽減を図るための条例改正

大崎町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定

原案可決

この条例は、全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律の施行を伴う関係政省令の交付により、子育て世帯の負担軽減の観点から出産した被保険者等に係る国民健康保険税の免除措置が講じられたため、国民健康保険税条例の一部を改正するものである。



議会の監視機能を高めるための修正可決

大崎町債権管理条例の制定

修正可決

この条例は、町の債権管理に関する事務処理について必要な事項を定めることにより、町の債権の適正な管理に資することを目的とするものである。

審議の過程において、委員から各議員間の討議において、町議会の関与の必要性、またその部分が欠如しているとの意見が出されたことや、議員としての職務が果たされないということになると議会不要論ということにも発展しかねない状況が生ずる恐れがあることから、本議案に対する修正案が中山美幸委員から提出された。

修正内容は、第13条第2項を「町長は、町の債権を放棄しようとするときは、法第

96条第1項第10号の規定により、議会の議決を得なければならぬ」に改めるものである。

修正案が提出されたことに伴いこれを本案と併せて議題とし、まず、修正案について採決を行い、起立多数で可決された。

続いて、修正可決した部分を除く原案について、採決を行った結果、可決すべきものと全出席委員の意見が一致した。

※修正可決とは、原案を一部修正して可決すること。



議案審議の様子

町の公衆衛生の向上のための条例制定

大崎町公共下水道事業の設置等に関する条例制定

原案可決

この条例は、公衆衛生の向上に寄与し、水質の保全に資するため、地方公営企業法第4条の規定に基づき、公共下水道事業の設置、法の財務規程の適用、経営の基本などを定めるものである。

水道事業処理の効率化のための条例制定

大崎町公共下水道事業の剰余金の処分等に関する条例の制定

原案可決

この条例は、地方公営企業法第32条の規定により、剰余金の処分について、事業年度に発生する処理の効率化を考慮し提案されたものである。

町民原口アヤ子さんを慰労する決議を求める請願書

不採択

請願者 高谷 秀男 氏
紹介議員 平田 慎一 議員

草原 正和 議員
藤田 香澄 議員

討 論

本会議において各議員が、賛成、反対の意見を述べ、それぞれ賛同を求めました。

趣 旨

この請願書は、ひとえに、人道的見地から96歳という高齢の原口アヤ子さんを慰労する決議を町議会に対し求めるものである。

最大の特徴は、大崎事件とその後訴訟、再審請求に一切触れていないことで、大崎町の同胞として、床に伏せる高齢者に対していたわりを示す文面である。

大崎町議会基本条例は、大崎町民の福祉向上と豊かなまち作り実現、これを議会の目標として掲げている。

人道をわきまえた、町民福祉と心豊かなまちづくりに資するものであると考える。

藤田 香澄 議員

賛成討論（抜粋）

議会は町民の一般的な意思だけでなく、同時に地域の意思も代弁する立場にあり、原口様や周りの方々が乗り越えられてきたご苦勞に気持ちを示すことが議会としての役割だと認識しています。

請願趣旨では慰労の形式は問わず、本人にご負担のない方法で慰労を行うこともできるとされています。



討論の動画

稲留 光晴 議員

反対討論（抜粋）

私たち支援者の願いは原口アヤ子さんが44年間、口では言い表せない屈辱、恐怖、悲しみに耐えてきていることから解放させてあげることだけなのです。

最高裁判所が再審開始を決定し、無罪判決を言い渡し原口アヤ子さんが普通の人間として安心して上を向いて生きられることにつきます。そのためには諦めず支援を続けてまいります。冤罪は、いつ誰がなるか分からないのです。



討論の動画

平田 慎一 議員

賛成討論（抜粋）

人道的見地から96歳という高齢の原口アヤ子さんを慰労するための決議であり、大崎事件とその後の訴訟、再審請

求に一切触れておりません。

同胞として、床に伏せる高齢者に対していたわりを示す請願で、人道をわきまえた慰労は町民福祉と心豊かな町づくりに資するものであると考えます。

中倉 広文 議員

反対討論（抜粋）

請願者、そして、関係者のご心情は十分お察しいたしますが、住民の代表であるべき議会が、本町住民の意向も十分に確認できていない中、また、対象者に係るこれまでの一連の出来事について、何も判断材料を持たない私ども自治体議会が、請願趣旨のような言及や態度を表明すべきではないと考えます。



討論の動画

一般質問

7議員が登壇

町政を問う

いな ども みつ はる 議員
稲 留 光 晴



- ・介護保険について
- ・本町基幹産業の支援策について
- ・インボイス発行事業者について

P 9

こ だま たか のり 議員
児 玉 孝 徳



- ・人口減少問題について
- ・子どもの居場所について

P 10

おか もと しゅう いち 議員
岡 元 修 一



- ・買物弱者対策について
- ・鳥獣被害対策について

P 11

なか くら ひろ ふみ 議員
中 倉 広 文



- ・ふるさと納税制度における今後の取り組みは
- ・水道事業の課題と対策を示せ

P 12

くさ はら まさ かず 議員
草 原 正 和



- ・有害鳥獣対策について

P 13

ひら た しん いち 議員
平 田 慎 一



- ・教育行政について (幼児教育を含む)
- ・ふるさと納税の現況及び今後の方針について (企業版ふるさと納税を含む)

P 14

ふじ た か すみ 議員
藤 田 香 澄



- ・グリーン購入法及び環境配慮契約法に沿った取り組みについて
- ・本町職員の働き方改革について

P 15

一般質問とは

町長などの執行機関に対し、業務の執行状況や将来の方針などについて議員個人として政策論争を行うものです。

二次元コード*をスマホ等で読み込むと各議員の一般質問を視聴できます。

*バーコードを拡張するために開発された二次元コードは、端末を使って簡単にコードを読み取ることができます。

介護保険9期計画の進捗状況は

実態調査により保険料試算



稲留 光晴 議員

況を説明し、次回以降にサービス料試算に基づいて保険料の試算をしていく。

介護保険特別会計決算と繰越額の推移は

問 第1期と第8期との繰越額の推移は。

答 3年度は基金に1億5000万円繰入れている

問 介護保険制度は今年で23年目となり、この間、保険料の上昇と利用者負担増が繰り返されてきた。保険料は引き上げずに現状維持を求める。令和6年度より第9期となるが、進捗状況はどうか。

実態調査とサービス料試算より保険料を試算

答 保健福祉課長 計画策定委員会を2回行っており、本町の高齢者状況の実態調査と国からの施策の説明とサービスの状

3年度は繰入、繰越額が増えている。返金すべきではないか。

問 基金とか繰越額は取りすぎなので被保険者に返金すべきではないか。

介護保険特別会計 決算による繰越金の推移

(単位：円)

	第8期			第1期		
	R3	R4	R5	H12	H13	H14
歳入	2,050,974,687	1,943,635,554		1,024,962,371	1,222,194,237	1,277,174,703
歳出	1,790,543,757	1,823,691,341		969,746,110	1,190,163,306	1,228,046,956
差引額	260,430,930	119,944,213		55,216,261	32,030,931	49,127,747
基金繰入額	150,000,000					
翌年度繰越額	110,430,930	119,944,213		55,216,261	32,030,931	49,127,747

介護保険料の負担を抑える目的で基金を設けた

答 町長 基金繰入額を令和3年度より設けているが、できるだけ介護保険料の負担額を抑えられるように基金を設けた。

滞納者の状況は

問 滞納者のそれぞれの所得段階とその人数は何人か。

160人で滞納額現年度125万5020円

答 町長 滞納者は60人で、滞納額が現年度分125万5020円、滞納繰越分89万6100円で合計214万5630円である。

第3段階まで軽減措置がある。滞納者が多い理由は

問 第3段階までは軽減措置があるのに、滞納者が多く、6割も占めている。その原因は何か。

低所得が主な原因である

答 町長 低所得者の人が増えて納付困難と理解できる。国の方針は現在の9段階をどこまで上げていくのか。高所得の負担層を増やして、低所得者層の負担をできるだけ緩和していく方針と思われる。

	第8期 (R3 ~ R5)		滞納者人数 R4の実績
	月額(円)	年額(円)	
第1段階	0.50	3,350	26人
第2段階	0.75	5,025	7人
第3段階	0.75	5,025	5人
第4段階	0.90	6,030	5人
第5段階	1.00	6,700	2人
第6段階	1.20	8,040	10人
第7段階	1.30	8,710	2人
第8段階	1.50	10,050	1人
第9段階	1.70	11,390	2人

(介護保険評価基準表)

コミュニティ協議会の考えは

地域や団体と協議し進める



児玉 孝徳 議員

問 少子高齢化による行事参加者の減少、役員の担い手不足などにより、自治公民館未加入者が増えている現在、町民が主体となる地域づくりを目的とした「地域コミュニティ協議会」を設置し、幅広い団体の参加のもと、魅力ある地域づくりに向けて取り組みを進めていくべきだと思うがどうか。

協議し勉強していく

答 町長 地域コミュニティ協議会は、必要だと思う。今後は、自治組織や協議会の在り方について、地域や団体と協議し、研究を進め勉強していく。



視察した採銅所地域コミュニティ協議会

空き家バンクを民間と提携しリノベーションを

問 本町の空き家バンクは魅力ある物件が少なく感じる。民間の不動産と

提携しリノベーションして魅力ある物件を増やしてほしいがどうか。

持ち主と交渉し努力する

答 町長 現在、空き家調査を実施しており、リノベーションは持ち主と交渉し、取り組むよう努力していく。

子どもまんなか社会への取り組みは

問 こども家庭庁が発足した。子どもまんなか社会の実現に向けて、子どもたちが健やかに育つために必要な環境の整備を行う機関であるが、本町の取り組みはどうか。

応援サポーターの就任を宣言した

答 町長 子どもまんなか応援サポーターの就任を宣言した。子どもたちが健やかで幸せに成長できる社会を実現する趣旨に賛同してもらえよう

周知していく。



子どもまんなか応援サポーター就任宣言

18歳未満なら自由に集まれる児童館の設置を

問 高校生や中学生が集まれる場所がない。勉強するための場だけでなく、趣味や遊び、自由に友達とおしゃべりする場所をつくってもらえないかという声がある。児童館は18歳未満の子どもが誰でも自由に通える場所とされている。設置する考えはないか。

既存施設の活用を考える

答 町長 図書館等を整備し、方向性を捉えることはできるかと思う。

地域コミュニティ協議会なら役目を果たせるが

問 各校区にこのような場所ができればと思うが、地域コミュニティ協議会ができれば、このような場所になるのではと考えるがどうか。

総合的に検証し判断する

答 町長 子どもから高齢者まで様々な思いの集合体となるので、地域コミュニティ協議会といった中で十分に機能するように、主体的な活動はどういうものなのかということも考えながら取り組んでいく。

※リノベーションとは、既存の建物に対して新たな機能や価値を付け加える改装工事のこと。

買物弱者支援の認識と方策は

重要と捉え探求していく



岡元 修一 議員

地元人材が対応する「とくし丸」方式についての感想は。

地域内循環の良きモデル

資源や経済が地域の中で循環しながら価値を形成する良いモデルである。

新規起業対応の補助金は

この事業で新規に車両購入して起業する場合の補助金及び内容は。

新規創業・起業支援補助金制度を設置

補助率は3分の2で限度額90万円である。

なお、車両に関しては、購入のみ対象でリース契約には対応していない。

困難解消に地元業種、

「とくし丸」式移動販売システムの感想は

運営費補助を拡充すべき

住む場所に関係なくサービスを行き届かせる事と持続可能な仕事とするために、補助制度の拡充をはかるべきである。

慎重に判断する

既存事業との兼ね合いや公平性を考慮する必要がある。



とくし丸車両

近年のイノシシの出没状況をどう捉えるか

住宅地周辺でも確認されて住民が怪我を負う恐れもあるが現状をどう考えるか。

年々増加している

町内全域で出没し増加傾向にある。

近年の捕獲実績と対価は

出没頭数増加での捕獲実績及び対価はどのようになっているか。

令和4年度実績は

令和4年度実績は次のとおりである。

令和4年度実績 (行政データを基に本人作成)			
大崎町猟友会 22名	捕獲数	野方猟友会 20名	捕獲数
イノシシ成獣	29	イノシシ成獣	109
イノシシ幼獣	7	イノシシ幼獣	12
タヌキ	25	タヌキ	25
アナグマ	25	アナグマ	23
捕獲補助金	694,400円	捕獲補助金	1,671,200円
報奨金・国県町合算		イノシシ成獣	12,000円
イノシシ幼獣	6,000円	タヌキ・アナグマ	4,400円

防護対策補助金は

防護対策補助金の内容はどのようなものか。

電気柵等設置事業補助金がある

設置経費の3分の1、限度額6万円である。今年度より限度額を3万円から6万円に引き上げた。

補助率の引き上げと電気柵貸与はできないか

さらなる補助率の引き上げとともに、電気柵貸与により広範囲での防護対策に結びつけられないか。

補助率や限度額については検討していく

貸与に関しては管理が難しく、現在のところ考えていない。

※他にワイヤーメッシュ柵補助事業の内容について質問しました

ふるさと納税制度における 今後の取り組みは

医療介護や産業支援にも 基金を活用していく



中倉 広文 議員

問 ふるさと納税寄附金を寄附金収入から一般財源とする案が財務省財政制度分科会で出された。一般財源化への移行がなされると多大な影響が免れないがどのように捉えているか。

情報収集に努めている

答 町長 普通交付税が減少する恐れがあるため、町としても危機感を感じ、県町村会や国会議員を通

じ、情報収集に努めている。

寄附者による活用先の意向
(行政データを基に本人作成)

町長が必要と認める施策	44.8%
子育て・教育施策	33.0%
環境施策	14.8%
にぎわいづくり施策	3.9%
観光・スポーツ施策	3.5%

基金をさらに活用すべき

問 本町のふるさと応援基金は現在、約57億5000万円である。

地方自治体は基金を積み増す一方、ふるさと納税に伴う自治体の税収減

の穴埋めに、国の歳出は増えている。こうした国の懸念を払拭するためにも、現在抱えている課題に対し、この基金をさらに活用すべきではないか。

医療介護や産業支援にも活用していく

答 町長 現在、主に4分野で活用しているが、本町は医療・介護施設が不足していることから、医師の公募にかかる支援や介護・福祉施設の整備、運営の支援など、住民の福祉向上と地域経済や雇用の促進などにも活用していく。

水道事業における近年の推移は

問 水道は住民の方々にとつととても重要な施設である。水道事業にかかっている近年の推移はどうなっているか。

緩やかな減少傾向である

答 水道課長 令和2年度には一時持ち直した時期もあったが、現状はすべての項目において緩やかに減少傾向である。

水道事業に係る近年の推移

年度	給水人口 (人)	給水戸数 (戸)	配水量 (t)	有収率 (%)
平成30年	13,140	7,116	1,508,862	90.45
令和元年	12,786	6,375	1,550,941	82.98
令和2年	12,614	6,366	1,541,258	83.93
令和3年	12,267	6,282	1,557,825	80.71
令和4年	12,148	6,200	1,528,726	80.60

課題をどのように捉えているか

問 現在、把握している課題にはどのようなもの

があるか。

財源や技術者の確保が困難になりつつある

答 水道課長 施設更新は単年度予算では限度がある。修繕も予防保全を基本に、大規模な修繕を回避できるよう努力している。また、人員の問題も深刻であり、若手の技術者離れも進んでいる状況である。

施設更新等を早急に進めるべき

問 ふるさと応援基金などを活用し、水道事業にかかる施設整備を早急に進めるべきではないか。

新計画に基づき繰出金の増額で対応していく

答 町長 令和6年度策定予定の新たな計画に基づき、繰り出し金の増額などを実施し、早急に対応していく。

有害鳥獣被害防止計画を示せ

先進事例を計画に活かす



草原 正和 議員

問 有害鳥獣による農作物の被害額、またイノシシ以外の鳥獣別被害額、農作物以外の被害状況を示せ。

イノシシ被害が約半分

答 町長 令和4年度の農作物被害額は199万9000円である。

農林振興課長 カラス被害が22万4000円。ヒヨドリ被害が81万6000円。農作物以外の被害は把握していない。



タヌキの病気が牛に発症した事例

農作物以外にも被害多数

問 農作物以外にも、タヌキの疥癬症が肉用牛にうつったり、カラスによる農機具の部品（光るもの）等の持ち去り被害があるが、被害額をどのように把握し、認識しているか示せ。

農業者への調査が重要

答 農林振興課長 農業

共済の申請をもとに把握している。アンケート確認も実施している。

今後、被害の現状を把握するためアンケートや調査を行っていく。

行政は何をしている

問 本町として、有害鳥獣対策の取り組み内容と取組み時間、経費等を示せ。

職員がイノシシ駆除実施

答 農林振興課長 箱罾を17基所有し、すべて設置して1日4時間週2回程度巡回している。令和4年度はイノシシ成獣を19頭捕獲駆除している。箱罾は1基9万6000円である。

捕獲従事者を増やせ

問 箱罾の購入費、巡回のガソリン代、巡回に係る時間等を考えると捕獲従事者は減少の一途である。捕獲従事者が増える

ような施策を検討できないか。

指導及び人材育成が必要

答 町長 被害に対する防除、防止意識の高い方々を対象に研修会を考えたたり、担い手の指導、育成が必要で方策を検討する。



民家のそばにイノシシ出没（永吉地区）

危険はすぐそばまで

問 有害鳥獣対策で、電気柵やワイヤーメッシュ柵で餌場をなくした鳥獣は人家、通学路等に出没し人的被害の可能性はないのか。

人身被害危惧

答 町長 電気柵ワイヤーメッシュ柵の効果は大きいですが、被害場所が隣に移動するだけで防衛は難しい。人身被害も可能性がありパトロールを実施し、警戒していく。有害鳥獣を減らす対策が必要である。

捕獲数計画の達成を

問 大崎町鳥獣被害計画では、令和3年から令和5年まで毎年イノシシを300頭捕獲駆除する計画であったが達成されていない。計画頭数が駆除できよう施策を検討せよ。

真剣に考え取り組む

答 町長 被害対策協議会や鳥獣被害対策協議会といったものを作り上げ、みんなで退治、対応していく考え方がある。先進事例を参考に計画に活かしていく。

適応指導教室の設置を求める

開設に向けた検討を進める



平田 慎一 議員

学びの支援は十分か

問 障がい児支援・不登校対策等を含む学びの支援は十分か。

十分な対策とっていない

答 町長 本年開設された民間事業所「はぐはぐ」も既にいっぱい、近隣事業所を案内しており十分ではない、さらなる対策の必要性がある。

支援の拡充をはかる

問 不登校対策等として公的機関が関与した教育支援センター（適応指導教室）の町内設置を行うべき。

答 町長 全国の不登校児は10年連続で増加し、本町は、小学校3名、中学校15名いる。支援の拡充をはかる必要がある。

教育長 全ての子どものための多様な学びの場の保障・確保が大きな課題で、公的な教育支援センター開設に向け検討を進める。

対象家庭があると認識

問 児童虐待・ネグレクト・ヤングケアラー等の現況認識と対応はどうか。

児童虐待の認識と対応は

答 町長 虐待等の情報は、要保護児童対策地域協議会や地域住民から情報提供され対象となる家

庭 があること認識している。保健福祉課長 対応は個別に進め、緊急時は児童相談所と連携し一時保護等をとっている。

早急な対応を進める

答 町長 いじめ問題は

大崎町の虐待認識状況（行政データを基に本人作成）

児童相談所 = 相談通報件数	（虐待認定数）				
	身体的虐待	心理的虐待	ネグレクト	性的虐待	その他の案件
令和4年	8件	4件	0件	0件	19件
令和5年	6件	8件	5件	0件	7件

いじめの現況と対応は

問 全国公立小中高のいじめ認知件数は10・8%増の68万1948件である。本町の現状と対応は。

答 町長 いじめ問題は

なかなか表面に出てこない、早期に把握・解決する協議を教育長と進める。
教育長 いじめ認知は、令和5年11月現在で小学校131件・中学校39件で年々増え、対応は各校对で学校いじめ防止基本方針を策定し進めている。

ふるさと納税の現況は

問 法改正による本町の対応・返礼品の不正問題に対する認識・基金積み立てが約57億円と増加しているが予算の使い道は。

大規模改修の原資等

答 町長 制度改正で、返礼品の基準も変更し価格見直しの対策を行った。産地偽装の報道を受け自己点検を注意喚起・他自治体のチェック体制等を参考にし、予算は将来的な大規模改修の原資も考えある程度確保、町内への移住定住を含めた雇用力等を考え取り組む。

企業版ふるさと納税は

問 企業版ふるさと納税の推移と今後の活用は。

ふるさと納税・企業版ふるさと納税の推移（単位：千円）
行政データを基に本人作成

	ふるさと納税額	うち町に入る税収	企業版ふるさと納税額	寄附企業数
令和2年	4,981,014	1,882,265		
令和3年	4,385,145	1,509,913	346,990	13社
令和4年	4,179,434	1,710,212	78,625	10社
令和5年			30,000	6社
計	13,545,593	5,102,390	455,615	29社

令和6年1月15日現在

寄附額約4億5千万円

答 町長 企業版ふるさと納税の活用については、環境分野の既存事業だけでなく、町の課題解決に直結する分野も取り組む。

※適応指導教室とは
教育委員会及び首長部局が設置・運営する不登校児童生徒の指導・支援を行う学校外の施設

グリーン購入法に基づいた 公共調達を推進すべき

SDGsを推進する本町としては 取り組む必要がある



藤田 香澄 議員

問 本町のグリーン購入法及び環境配慮契約法に基づいた公共調達の状況は。

答 紙類と文具類の一部で基づいた調達をしている

答 総務課長 毎年町内事業者と契約している特定事務用品の仕様書の中で、グリーン購入法に適合した物品選定を盛り込んでいます。令和5年度契約においては、紙類と、

したい。

町内事業者の巻き込みの可能性はどうか

問 地域を巻き込むために、グリーン購入を実践されている優良事業者等を町独自に表彰するのはどうか。

事業者との協定締結や表彰なども検討したい

答 町長 優良事業者等とは協定等を結びながらさらにご理解をいただき、成果を見ながら表彰も検討したい。



グリーン購入法適合商品

職員の働く環境はどうか

問 職員の働き方において、高ストレスを抱えている職員はどの程度いるか。

一定数の高ストレスを抱える職員がいる

答 町長 毎年大体20名強の職員が高ストレスを抱えている。

本町職員のストレスチェックの結果（会計年度任用職員含む）

計画	令和2年度	令和3年度	令和4年度
職員の健康リスク (全国の標準団体の平均を100としている)	82	79	80
高ストレス者数 (括弧内は割合。令和3年度の全国平均:10%)	令和2年度職員 204名のうち 24名 (12%)	令和3年度職員 207名のうち 20名 (10%)	令和4年度職員 213名のうち 24名 (11%)

全国平均と比較して約2割程リスクが低い。

全国平均と変わらないが、ここ3年間変わらない。

行動計画の進捗はどうか

問 令和2年4月策定の大崎町特定事業主行動計画の後期計画において、良好な職場環境づくりに向けてとられた行動は人事評価への反映を行うと

いう表記があるが進捗はどうか。

人事評価等への反映は未実施

答 総務課長 現時点では反映されていないのが現状。本年度試験的に取り組み、来年度から本格的に取り組みたい。

職員満足度調査の実施を求める

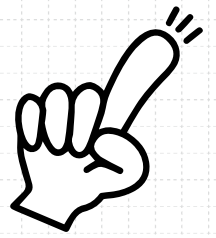
問 状況改善のために職員満足度調査の実施と働き方改革を推進するモデル部署の設置ができないか。

検討したい

答 町長 職員相互間のサポート体制構築も含めてできるか検討したい。

※グリーン購入法とは、環境への負荷ができるだけ少ない製品やサービスの購入を推進する法律。

眼点はこちら



「学びの21世紀塾」「寺子屋クラブ」「移住・定住政策」
「採銅所地域コミュニティ協議会」



採銅所地域コミュニティ協議会（香春町）

11月20日21日22日の3日間九州内の優れた政策を実施している二つの市町を研修いたしました。議員それぞれが、研修先では、今後町の政策に反映させるべく、それぞれの視点で受け入れ市町担当者との意見交換、現場の実態を視察いたしました。

研修成果をまっちゅーぐらぐらに活かします

全国トップレベルの子育て教育支援・学びの21世紀塾の取り組みによる、大分県内17年連続トップクラスの学力とスポーツを両立、特に学習サポートが充実している。

移住・定住施策による住みたい田舎11年連続ベスト3である。本町も成功事例を参考に子どもたちの未来のため政策立案し実行すべきと考える。



平田 慎一議員

2002年からのゆとり教育により、学校の週休2日制移行に対する保護者の不安の声から、行政で土曜授業を提供したのが始まり。

以降20年続いている。大崎町の学校教育も保護者や児童生徒の声で方針は変えられる！



藤田 香澄議員

豊後高田市教育委員会は、学力低下への懸念、学習環境の確保から、平成14年「学びの21世紀塾」の誕生に取り組み、成績も向上している。

また、移住定住施策については、2年前にアンケート調査をし、今するのは人口増であり定住は市有地を中心に進めているとのことでした。



宮本 昭一議員

私は、福岡県香春町の採銅所地域コミュニティ協議会の取り組みが勉強になった。

香春町の高齢化率が42%なのに、全体でワークショップをして、いろいろな世代の意見を出し、地域の課題を一つ一つ解決するところがすごい。

大崎町は、集落活動ができない所が地域コミュニティの事業に取り組むべきと思う。



神崎 文男議員

福岡県香春町採銅所コミュニティ協議会は、「一人ひとりが地域の主役」という理念のもとに立ち上げられたとのこと。地域のさまざまな人材の活用や、それぞれが何らかの形で地域に関わることの大切さを学びました。



中倉 広文議員



寺子屋クラブで教職員による指導（豊後高田市）

採銅所地域コミュニティ協議会を訪ねて、地域の過疎、衰退化の危機に常にアグレッシブに取り組む態度に感銘を受けました。「餅は揉むほど丸くなる!」自治体、校区、住民が、課題と展望を自分達の問題として、真剣に取り組んで得た姿を、本町に伝えたいと思いました。



岡元 修一議員

なぜそこに人が集まるのか。なぜその地域は盛り上がっているのかに着目しました。そこには子どもたちの笑顔があり地域で子どもを育てる。子どもを育てるなら「ここでしょ」って空気が流れていました。大崎町もそんな町に。



草原 正和議員

豊後高田市は、空き家バンク利用登録者の就労状況が一つは人口増の要因である。

住みたい町連続ベスト3で、工業団地があり、就職・被雇用が60%。自営・起業が10%であり、就労状況が本町と違うところである。住みたい町は、働く場所がまずあることがまずポイントではなからうか。



稲留 光晴議員

無料で豊後高田市が運営し多様な学びの取組を行う「21世紀塾」、退職教師や塾の講師・市民の方などが先生となっている点や、市内の中学校は、毎週水曜日は部活を休みとし、放課後、授業の復習をしている点が参考となった。



児玉 孝徳議員

全国トップレベルの子育て支援に感動。「学びの21世紀塾」にはプロ教師の責務とした教職員の支援者協力体制の充実。市民自らの支援活動が実施されていた。妊産婦への支援制度の充実、特別支援教育講座の充実。



中山 美幸議員

豊後高田市は、手厚い支援策で移住希望者を引きつけ、9年連続で人口増加を達成している。本町においても、移住希望者のニーズを的確に捉え、より一層充実した移住支援金制度を構築し、人口増加に繋げることが重要だと実感した。



吉原 信雄議員

少子高齢化の到来は、空地・空き家問題にとどまらず、特に「子ども、子育て支援」や移住定住施策において自治体間の知恵比べの時代に入っています。豊後高田市における取り組みを参考に大崎町版の異次元の発想と取り組みが求められています。



富重 幸博議員



学びの21世紀塾（豊後高田市）

新年明けましておめでとろございます



新春にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。
まず、元日早々に発生した令和6年能登半島地震により、被災された地域の皆様の一日も早い復旧を願っております。
また、昨年を振り返ると、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行し、かつてのにぎわいが徐々に戻りつつあることを大変嬉しく思っております。

このような状況の中、昨年から議会改革の一環として「タブレット導入に向けた検討委員会」を設置し、議会におけるタブレット端末の導入に向けて検討を重ねて参りました。
これについては、令和6年度から、本格的に導入し、議会DXによる効率的かつ円滑な議会運営を推進していくこととなります。また、引き続き動画配信サイト「ユーチューブ」による議会中継の映像配信の充実をはかって参ります。これらを機会に、町民の皆様にも少しでも議会を身近なものとして感じていただけたらと願っております。

私たち議会は、町民代表の議事機関として、人口減少問題、防災・減災、地域活性化策など、さまざまな課題に対して政策提言等を行いながら、これからも全力で取り組んで参ります。最後に、町民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

大崎町議会

気になるあの人に聞いてみました！

ラグビーフットボール協会

坂口晃大さんに聞きました



大崎町ラグビーフットボール協会
Beach.Wave.Osaki
坂口 晃大 さん

京都府生まれ、41歳
京都成章高校ラグビー部出身、
現在：大崎町仮宿在住・会長兼監督

「ノーサイド」の精神で町を盛り上げたい

ラグビーで街に にぎわいを！



広報広聴常任委員会委員
平田 慎一 議員

平田議員
大崎町に移住されたきっかけは。

坂口さん
両親が志布志市でピーマンを栽培していた関係で、20代前半の時に、京都府からIターンし、志布志市で就農しました。その後、妻の出身地大崎町に移住し、現在も志布志市でピーマンを栽培しています。

平田議員
大崎町にラグビーをできる環境をつくった経緯は。

坂口さん
鹿屋市の小・中学生のラグビーチームコーチに数年携わっていました。ふと、私は大崎の人間なのに、何で大崎でラグビーをやらないんだろうと思ったんです。最高の天然芝グラウンドもあるのにと、いう思いもありました。そのような思いから、大崎町でラグビーをできる環境をつくる

ため、クラウドファンディングで寄附を募り、遠くはニュージーランドなど、



多くの方に寄附をいただきました。

周囲からは、資金面等行政を頼った方が良く、という意見もあったのですが、行政には頼らず挑戦しました。

ポールも知人から頂き、さまざまな経緯を経て、大崎町中央運動公園内にラグビーをできる環境をつくることになりました。

平田議員
ようやくこけら落とし記念大会にこぎ着けたわけですね。

坂口さん
令和5年6月11日、全国大会の強豪、母校の京都成章高校を招いて、鹿児島県代表と

の練習試合を行いました。大雨の中でしたが、ラグビーの迫力ある試合を、多くの住民の方に観戦していただいたことに心を震わせました。

平田議員
ラグビーの楽しさ、また今後の展望を教えてください。

坂口さん
ラグビーの楽しさは、激戦になっても試合が終わったら、敵も味方もなくお互いを尊重する「ノーサイド」の精神です。終わったらみんな仲間みたいな感じですね。

また、ゆくゆくは、ラグビーの合宿地として日本全国から多くのラグビー選手を大崎町に誘致し、ラグビーの持つ楽しさを多くの人に伝える仕組みをつくっていきけるように頑張りたいです。

ラグビーを楽しむ子どもたち
現在団員募集中

私の想い

分館長一年間を振り返り



持留公民分館長
栞山 章二

昨年、前分館長の岡元さんより持留分館長を引き継ぎ一年近くになります。私は中学校を卒業してから6年前に帰ってくるまで、約40年間地元に住んでいなかったために何も分からず不安はありました。

しかし、実際活動をしてみると各分館長の方、役場の方々やそして地元の人達に本当に親切に色々とおアドバイスをしてもらいました。今

まで新型コロナウイルスの影響で中止されていたイベントや催し物も、昨年5月にコロナも第5類に移行したために、徐々に色々再開されました。持留分館も4年ぶりのさくらまつりまつりの開催で大いに盛り上がり、また、グラウンドゴルフやえんがわカーリング大会等で地域の世代間交流と活性化が久しぶりにできたと思います。

また、かごしま国体でビーチバレーやドッジボール大会も大崎町で開催され盛り上がり、グラウンドゴルフでは黒丸正昭さんが鹿児島県代表として出場され

全国5位入賞は勇気と希望を与えてもらいました。

このように、新型コロナウイルス以降久しぶりの明るい年になったような気がします。

さて、今後の課題として少子高齢化問題は深刻な状況にある中、若い世代の自治公民館加入率低下で地域役員の高齢化が顕著になっており、若い世代の役員のなり手不足で世代を超えた話し合いの場を持ちづらい状況があります。

今後は人と人のつな



えんがわカーリング (持留小体育館)



第6回持留さくらまつり

がりを大切にした地域活性化が必要であり、お互いを助けあう新しいコミュニティづくりが必要になってくると思います。

分館活動を通じてこのような課題に取り組む、高齢者と子どもを持つ若い世代の方々が住みやすい大崎町になるように努めていきたいと思えます。

編集後記

寒桜が咲き誇る季節。厳しい冷え込みのなかで、淡いピンクの花が咲き誇り、春の訪れを予感させます。

地域の様々な出来事や取り組み、そして町民の声に耳を傾けながら、より良い大崎町を築いていくための情報をお届けしています。

さて、12月議会では町の予算や地域の施策など、皆さんの生活に密接に関わる重要な事柄について真剣に向き合い、良い方向へ進むための方策を検討してまいりました。これからも皆さまのご意見やご要望に真摯に向き合い、大崎町をより良い町にするために、議員一同努力してまいります。(中山美幸)

議会広報広聴常任委員会

- 委員長 吉原 信雄
- 副委員長 岡元 修一
- 委員 中山 美幸
- 委員 中倉 広文
- 委員 平田 慎一
- 委員 草原 正和

発行責任者

大崎町議会議長 富重 幸博